

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2024年2・3・4月号

編集発行人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー

京都市左京区一乗寺竹ノ内町23

075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第633号

本財団は昨年十一月一日「ガザ地区および周辺地域における深刻な事態についての声明」を発売した。遅きに失した感は否めないとしても、軍事衝突への反対声明は前年の「ロシアのウクライナ軍事侵攻に反対する声明」(一昨年年四月二二日)につづき、二例目となった(いづれも本財団公式サイト参照)。それほどいま世界は危機に瀕している。

念頭には「彼らは剣を打ち直して鋤とし/槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず/もはや戦うことを学ばない」(イザヤ書二章四節)があった。ニューヨーク国連広場の壁に刻印されて、ユダヤ・キリスト教を超えた世界共通の祈りとされてきたものだ。近くには「剣を打って鋤の刃にしよう」と題されたブロンズ像(エフゲニー・ヴチエイチ作)もある。たくましい男性がハンマーを高く振りあげて、幅広の剣を打ち直そうとしている。一九五九年、ソ連(当時)によって寄贈されたものだ。時代の隔世を問わずにはおられない。

昨秋、関西セミナーハウス

において開催された「京都の秋を愛でる」ウクライナの平和を願うに、講師の一人としてお迎えした造形作家の渡辺一さんとの話題が、たまにこのブロンズ像に及んだ。渡辺さんは穏やかな口調で、ハンマーを高く振りあげた姿が平和とは不釣り合いで、開催された「平和への祈り」展

その腕を振りあげてはいないか



日本クリスチャン・アカデミー代表理事 中村 信博

に出展していただいた渡辺さんの《平和をつくり出す人》(5面・画像あり)には、十字架のキリストに招かれるようにして、武器を農具に打ち直す人の姿が描かれている。けれどその手は振りあげられてはいない。まるで金属の状態を氣遣うように、そして、やさしくいたわっているように見える。

中村 信博

冒頭の「声明」では、「はなしあい」という非暴力の方法こそが必要であると訴えた。しかし、渡辺さんに出会って、はたして「はなしあい」は無条件に有効な手段だろうかと思えるようになった。ハンマーではないにしろ、われわれは

正義や自己正当化の論理を高く振りあげて「はなしあい」の場に臨むことはないだろうか。「はなしあい」はなんと、言っても言語情報の交換によって成立する。われわれはいつの間にか、「言葉」と「論理」の切っ先を磨くことに精を出しては来なかっただろうか。アカデミー運動を指導したエバハルト・ミュラーは、社会を改善するためには立場・主義・主張の異なる人々が共

同の責任を負うことが課題であると、キリスト者にその強い自覚を求めた。さらに、自分の信仰に拘って、互いに反目してしまうなら、狂信的な危険に陥っているとまで警告した(「アカデミー運動の基盤」荒井俊次編『はなしあい』1983)。

パウロは、十字架の救い主を「かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられた」(フィリピの信徒への手紙二章七節)と理解し、神のケノーシス(自己無化)を抛り所にして、獄中から恵みと平和を発信したのだった。いま、われわれはどのような願いをこめて、「はなしあい」の必要を世界に訴えようとしているのだろうか。われわれもまた、パウロとともにケノーシスの十字架に招かれていることを忘れてはならない。

渡辺一さんからは、昨秋の展示にあわせて《平和をつくり出す人》と《和解》を本財団にご寄贈いただいた。心から感謝するとともに、込められた祈りを大切にして歩みたいと願ってやまない。

(同志社女子大学特任教授)

関東活動センター《参加者寄稿》

●2023年度「宗教対話」Ⅲ

読書会「キリスト教と文学」

講師 文芸評論家 柴崎 聰さん

2023年5月～2024年3月第3火曜8、12月休会、全9回

会場 関東活動センター会議室

◇参加者寄稿

読書会「キリスト教と文学」

大川 芙喜子

高田馬場駅から早稲田大学正門行のバスに乗って二つ目、西早稲田で下車、バスを見送った方向に横断歩道を渡り、正面の細い路地を入るとすぐキリスト教会館が見える。1階左側の半地下の小さなドアを押すと、ガラス張りの明るく静かな小ホールが読書会会場である。受付には神保信子さんが気持ちよく対応してくださり、会費千円にペットボトルのお茶と種々のお菓子が渡されるといふサービスが付く。安価で申し訳ない思いである。難聴のため、講師の先生の近くの席に座る。今回のテーマは、シェークスピアの『オセロー』。五〇年前に舞台劇をTVで見て、若かった私は、権力を笠に着た横暴

なオセローに憤慨して、殺された妻デズデモーナに深く同情した記憶があるだけである。(今回の解説で、オセローが7歳の時から戦場に置かれ、愛が育まれない環境の生い立ちや、最も信頼していた部下イヤーゴの巧みな罠に惑わされていくオセローの悲劇を知ることが出来た) 現在誰でも知っているオセロー・ゲームは、この有名な戯曲から命名されたというエピソードの紹介から解説が始まる。

読書会「キリスト教と文学」は楽しい!

大野 寿子

講師の柴崎聰先生は、綿のようにならかなお人柄で、お声もまた然り。受講生は各自かつて読んだ本を持参し、ある方は分厚い全集を持って来られた方もいる。柴崎先生はゆっくりと丁寧なレジュメを読み進めて、時々受講者に感想を求め、昔読んだときと、年齢を重ねて改めて読み直した思いなどの応答が挟ま

る。そのやり取りは座を和やかにする。一言でも参加者の声を聴くよう配慮される。ボンヤリしていた我が脳みその雲が晴れ、「そういうことか、よし、改めて読んでみよう!」と思い始めている。

やがてまた読書の秋がやって来る。文学本は山のようにあるだろうが、手を伸ばして精読する私の年齢は秋の日差しのごとく短くなっている。厳選された一冊一冊を丁寧な解説付きで、サービスピッキの心地よい場所で、キリスト教に関わる書物を味わえるこのようなどころは他にないであろう。私にとっては、まことにありがたい時間と場所である。

72歳の今まで「読書会」なるものに参加したことがなかった私です。「文学」は敷居が高いがしていたのです。でも、今回読書会の案内を見て「行こう!」と思ったのは、テキスト9冊中読んだことがあなかつたのはたったの2冊だっただけです。これは新しい本と出会

合う絶好のチャンス!と思いい、申し込みました。柴崎聰先生が「キリスト教と文学」で取り上げた本は、キリスト教について書いたものでも著者がキリスト者であるというものでもありません。その物語の流れの中に、そこはかとなくキリスト教を感じる本を今回のテキストとして選ばれたのだそうです。第一回目は山本周五郎の「さぶ」でした。丁寧に作者・周五郎自身の人生をたどるところから始まりました。今までの本を読んでいても、その作者がどのように生きてきたかについて深く考えたことはありませんでした。それから一人ひとり登場人物の説明から入り、重要表現・比喻表現の解説へと続きます。私の本の読み方は、ただただストーリーの面白さにひかれて、途中立ち止まることもなく、一気呵成に読むというパターンでした。途中で「この意味は?」と考えることもなく、「さぶ」のようにストーリー展開がスリリングであればあるほど突き進むという読み方しかして

いけません。それからもう一度ゆっくり読み返し、たくさんさんの気づきがありました。それは「なぜオセローはデズデモーナを殺したのか?」という宿題が与えられていたからです。そのことを頭の片隅に置いて読むと、引くかかる言葉があちこちにありました。会の終わりに、参加者の方々の心に刺さる言葉や思いを分かち合ったのは、心楽しい時間でした。



関西セミナーハウス活動センター

●2023年度「開発教育セミナー」第4回

「ウトロで考える人権・平和

〜これまでの活動に学び、多文化共生社会を創造しよう〜

講師 ウトロ平和祈念館副館長 金 秀煥(キムスファン)さん

2023年11月7日(土)〜8日(日)

「ウトロ平和祈念館」とウトロ地区(宇治市)フィールドワーク、

関西セミナーハウス



ウトロ平和祈念館見学・地区フィールドワークと講師の話から多文化共生社会を考えるワークショップを開催した。第1セッションは、現地での講話・展示見学・フィールドワーク・自由見学を通して、不衛生な環境や立ち退き問題を解決してきた人々のくらしに触れ、秀煥さんが繰り返し言葉にした「かわいそうな人たちではなく、支え合いながら生きてきたあたたかい人たちのまち」を体感した。この後ハウスに移動した。



第2セッションは、2021年の放火事件を題材にして、ヘイト行動の背景について考

えた。実行した青年がウトロを知ったのは事件の十日前で、差別的なデマを信じ込み、鬱屈した思いをぶつける対象としてウトロを選んだ。「地域の人たち、とりわけ子どもたちの気持ちを考えて、最後まで放火ではないかと思いたかった」と語った秀煥さんの言葉を自分たちの問題として受け止めた。



第3セッションは、環境整備から祈念館建設までのウトロの人々と市民の連帯につい

て学んだ。活動は、ウトロ住民による「土地対策委員会」と日

「もう一回、ジュビリー年が必要だ!」と大宮有博講師は強く提言した。エコロジカルな解釈学を聖書に適用すること

今回の講演では、聖書のエ

の例を挙げ、この解釈学の

て学んだ。活動は、ウトロ住民による「土地対策委員会」と日

の例を挙げ、この解釈学の

●2023年度 修学院フォーラム「社会」第3回
「聖書をエコロジの視点で読む」
エコロジカル聖書解釈への招き
講師 関西学院大学法学部教授・神学博士 大宮 有博さん
2023年10月22日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン





●2023年度 修学院フォーラム「いのち」第3回
「旧約聖書と現代」
人間と自然、人間と社会、人間と文明

講師 古代オリエント博物館館長 月本 昭男さん
2023年11月3日(金・祝)〜4日(土)
関西セミナーハウス

現在凄惨な戦争が繰り広げられて、人は、神の似姿として造られているイスラエル・パレスチナの地は、旧約聖書を生み出した地である。かつて人々は、この地で何を大切に生きてきたのか、を考えたいと思っ、このフォーラムに臨んだ。

月本先生は、何度もこの地に足を運び、遺跡に刻まれた楔型文字を解読し、ヘブライ語聖書の記録を辿り、そこに生きた人たちの生きざまを探ってこられた。

旧約聖書の民は、日本の神話のように国の始めではなく、世界の初めに関心を持つた。世界は、深淵に神の霊が働きかけて造られたと受け止めた。

エルサレムからバビロニアに捕らえ移されたユダの民にとって、そこに聳え立つ「バベルの塔」は巨大で、圧倒される

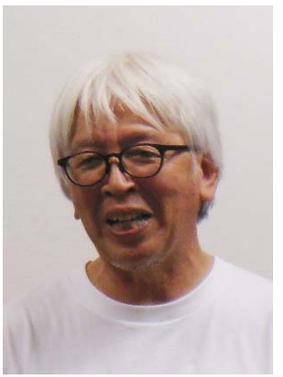
思いであった。しかし彼らにとつて、その塔に象徴されるバビロニア文明は永遠であり得なく、その中央集権はやがて混乱を招くと思われた。それがバベルの塔の物語を生み出した。

●2023年度「開発教育セミナー」第5回
「主体的に行動する市民を育てる」
「南」の島の出会いの現場から

講師 Evangelical Lutheran Church PNG, Lutheran Development Service
藤野 達也さん
2023年11月4日(土)〜5日(日)
関西セミナーハウス

講師の藤野さんは、国際協力の現場で約三〇年活動する一方、「関西NGO大学」で長く校長を務められた。NGOを退職後、パプアニューギニアに渡り、村人とともに暮らし、ご経験から今、考えていることを伺い、学びあった。

第1セッションでは、ビームを使ったアクティビティで、与えられた条件による有利不利を体験し、格差の引き起こされる構造について体感した。



〈協力プログラム〉
「金属労協/JCM 第54回労働リーダーシップコース」
主催 全日本金属産業労働組合協議会
2023年10月12日(木)〜28日(土)
関西セミナーハウス

関西セミナーハウス開所初期の1969年から続くこのコースは、金属労協傘下の労組中堅幹部を主な対象に、合宿制により大学水準の基礎的教育、全人格的教育に取り組む。今回は、「時代の求める労働組合の役割」を総合テーマに、女性3名を含む25名の受講者が、17日間、寝食を共にしながら、多彩なカリキュラム、文化体験などを通し、研鑽を重ね、交流を深めあった。



つてドイツ人が持ち込んだコーヒー豆の栽培が行われているが、自分たちは飲み方を知らず、インスタントコーヒーを買って飲んでた。藤野さんは、村人が自分たちで焙煎して、飲んだり、販売したりすることができるよう方法を伝えたが、コロナ禍で藤野さんが離れた後は停滞しているらしい。藤野さんは「最終的にどうするかは、彼ら次第」だとし、パプアニューギニアの人びとのことを、資本主義社会の枠から捉えることへの疑問を投げかけた。

第3セッションでは、さらに、「開発とはなにか」、「開発教育に関わる自身の生き方はどうなのか?」ということについて、はなしあい、深め合う場となった。



紅葉の美しい季節に、関西セミナーハウスに滞在し、講演「祈り、絵画展、音楽鑑賞などを通して、造られた世界の美しさや愛で、神の祝福と世界の平和に思いを深める時を共有したいと願った。」

渡辺総一さんは、講演「祈り、絵画展、音楽鑑賞などを通して、造られた世界の美しさや愛で、神の祝福と世界の平和に思いを深める時を共有したいと願った。」

「京都の秋を愛でる」
 ～ウクライナの平和を願って～
 講演「祈りの造形」
 講演「知りたい アジアのキリスト教美術」
 ～関西セミナーハウスの所蔵作品を中心に～
 造形作家 渡辺 総一さん
 講演「ウクライナの平和を願って」
 ～世界教会協議会(WCC)の取り組みから～
 関西学院大学名誉教授 神田 健次さん
 ワークショップ「楽しいアートー真・善・美・愛で平和の正四面体」
 渡辺 総一さん、渡辺 なおさん
 トークとピアノ演奏「ちいさな先生を語るくとも歌うひと時」
 アシユラムセンター 主幹牧師 榎本 恵さん
 アシユラムセンター 奏楽者 橋本 るつ子さん
 トークと詩の朗読「かかわらなければ路傍の人」
 ～ハンセン病回復者との交わり～
 シンガソングライター 沢 知恵さん
 2023年11月23日(木・祝)～25日(土)
 共催・会場 関西セミナーハウス



に絵具や筆を使って絵を自由に描き、それを正四面体に組み上げることを通し、造形の楽しさを体験させられた。

神田健次さんは、講演「ウクライナの平和を願って」世界教会協議会(WCC)の取り組みのためのWCCの試みを紹介し、



《寄贈作品》

←左 「平和を作り出す人」

↓下 「和解」

渡辺総一さん(左から4人目)、なご夫妻(左端)と作品を囲んで。



共にその歩みに連なることを促された。

榎本恵さんと橋本るつ子さんは、ご姉弟のお父様、ちいさな先生こと榎本保郎牧師の伝えた言葉と、るつ子さんのお連れ合い、橋本裕さんが遺した讃美歌を紹介し、共に静まる時を共有した。

渡辺総一さんは、今回展示された作品の中の代表作2点を、関西セミナーハウスへ寄贈された。

沢 知恵さんは、トーク「かわらなければ路傍の人」ハンセン病回復者との交わりを通して、ハンセン病回復者との交わりを通して知らされた人生の深みを伝えられた。

参加者は残念ながら関西セミナーハウスを満了す数には達しなかったが、参加者した人にとっては、憩いと新しい命の息吹を感じさせられる貴重な時となった。

プログラム案内

◆関東活動センター

(いずれも共催：早稲田奉仕園)

■2023 年度 聖書を読む講座 I

「マルコ福音書をジックリと読む」第6期

講師：山口 里子さん(聖書学者)

日時：⑩2月13日、補講3月12日
火曜 18:30~20:00

参加費：全10回8,000円、学生4,000円

方法：Zoomによるオンライン講座

■2023 年度 宗教対話Ⅱ

読書会「キリスト教と文学」

講師：柴崎 聡さん(文芸評論家)

日時：⑧2月20日スティヴン・キング『グリーン・マイル 上下』
⑨3月19日辻 邦夫『安土往還記』火曜14:00~15:30

参加費：各回 1,000 円

会場：関東活動センター会議室(キリスト教会館1階16号)

◆関西セミナーハウス活動センター

■2023 年度修学院フォーラム「福祉」

第2回「トラウマインフォームドケアと支援者支援～トラウマを負う人に向き合うために～」(共催 京都YWCA)

講師：小川 恵美子さん(精神保健福祉士)

日時：2月17日(土)13:30~16:00

参加費：1,000 円 学生 500 円

方法：会場 関西セミナーハウスと Zoom 併用

■2024 年度修学院フォーラム「社会」

第1回「預言書に学ぶ非戦のこころー第2イザヤを中心に」

講師：石川 立さん(同志社大学名誉教授)

QRコードとHPリンク: 財団本部 HP, 関東活動センター HP, 関西セミナーハウス HP, KSH 活動センター HP

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー 代表理事 中村 信博 本部事務局 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256 関東活動センター 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館 1F TEL 03-3207-6198 E-mail :info@academy-tokyo.com 関西セミナーハウス/ 関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 FAX 075-701-5256 関西セミナーハウス TEL 075-711-2115 E-mail :info@kansai-seminarhouse.com 関西セミナーハウス活動センター TEL 075-711-2117 E-mail :office@academy-kansai.org

日時：4月13日(土)13:30~16:00 方法：会場 関西セミナーハウスと参加費：2,000 円 学生 500 円 Zoom 併用

賛助会費・寄付金報告

2023年10月1日~12月31日 ◆関西セミナーハウス (順不同・敬称略) 寄付

◆財団本部

寄付

武藤 高司
柳井 一郎

◆関東活動センター

賛助会費

立原 敬一
横野 朝彦
進藤 重光
門間 幸枝
吉田 博
上垣 勝
戒能 信生
根津 建

寄付

許 昌範
匿名

小林 義彦
門間 幸枝
増田 博
小林 誠治
萩原 好子

クリスマス寄付

門間 幸枝
中井 博雅
林 秀雄
濱田 ひろみ
齊藤 潤
河原田 美哉子
水溜 千枝子
恵泉女学園中高・宗教部

神学生プログラム寄付

浦上 充
松原 千里
小久保 正
関 伸子
横野 朝彦
並木 浩一
竹中 百合子
中村 信博
農村伝道神学校
門間 幸枝
川北 かおり
原 誠
吉田 博
井口 拓人
松井 直樹
東矢 高明
桃井 明男
戒能 信生
湊 理恵
同志社大学神学部
根津 建
関西学院大学神学部後援会
友野 富美子
萩原 好子

◆関西セミナーハウス

寄付

中村 信博
林 律

八田 尚嘉
武山 泰子

延原 正海
林 宗一郎

奈良 睦子
中村泰洋園

和田 喜彦
牛尾 宣夫

井上 康三郎
森口 克洋

岩崎 順子
株式会社田中工務店

神崎 清一
浅沼 弘一

柴田 賢司
鳥井 清司

諫早 道子
脇坂 照世

全国本田労働組合連合会
金属労協第54回LSC

受講生一同
株式会社新経営サービス

株式会社ワンアップ・ジョブ

株式会社三原工務店

黒田 睦子
京都文教大学臨床心理

学部 名取 琢自
中井 博雅

船坂 孝江
小久保 玲子

神保 正男
柳井 一郎

石川 公子
株式会社ビーテック

株式会社藤木工務店
京都支店

榊原 孝
自動車総連

西川 淑子
辻 紀子

武田薬品京都農園退職者
親睦会えんじゅ会

奥田 正義
竹中 百合子

鈴木 さち子
荒井 功

島田 恒
THE AIRS 菅原 直人

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費

菅 恒敏
中上 和子

友前 尚子
黒田 睦子

岡安 茂祐
白方 誠彌

高寺 幸子
日野 多栄子

寄付

柳井 一郎
Christian M.Hermansen

脇坂 照世
徳丸 延子

シユベネマン 偕美
三浦 正行

橋本 るつ子
野田 純一

村上 みか
西村 裕美

鳥井 清司・操
榎本 かな

杉本 尚司

クリスマス寄付

中村 信博
今川 泰彦

木下 壽子
多田出 佳世子

林 律
根岸 宏邦

間瀬 啓允
藤田 恭子

小久保 正
京都みぎわキリスト教会

友前 尚子
丸山 まり子

織田 雪江
武山 泰子

水戸 潔
山岡 義生

藤田 敦子
日本キリスト教会吉田教会

荒井 加代子
伊藤 正子

吉田 力
井田 光昭

古賀 暢子
菅 恒敏

斉藤 洋子
国際シャローム・キリスト教会

菅原 幸子
匿名

山添 みどり
日本キリスト教団和歌山伝道所

和田野 勢津子
浦 晴子

山本 俊正
堤 龍春

熊谷 文郎
島田 恒

日野 多栄子
松尾 光雄

以上、感謝を持ってご報告申し上げます。

今号から、割り付け、印刷の外部委託をやめて、発刊にかんするすべての作業を当財団事務所内で行うことにしました。これを機にサイズを大きくし、一部カラー化も試みました。これからも随時工夫を重ねます。ご期待ください。(N)